

加工製品の ケア方法について

ONE COATINGは、繊維製品であれば繊維のまわりに、非繊維製品であれば表面に、コーティング皮膜を形成し、個体や液体の汚れが中に浸透することを防ぎ、シミ等ができることを抑えます。しかし、汚れ自体が堆積したり、付着したりする物理的な現象を抑えることはできません。その為、それらを除去するケアは、欠かすことができません。

ここでは、ONE COATING加工品の素材、アイテム別のケア方法について、簡略にまとめました。ケア用品については、できれば家具専用の、素材等に合ったものを使用いただきたいので、推奨品を掲載しています。

ケア方法は、対象の素材や仕上げ、汚れの種類や状態に合わせて変わります。
また、目に見えるものだけでなく、見えない汚れ(臭い、菌、ウイルス、カビなど)もあります。

一見、複雑で難しそうですが、固形汚れを掃き清掃で除去→付着・固着した汚れを拭き清掃で除去→目に見えない臭いや菌、カビなどの予防や除去、という基本的な考え方は、どれも同じです。

ファブリック 編		Fabric	P02
ラグ、カーペット 編		Rag & Carpet	P04
レザー 編	スムースレザー	Leather (Smooth)	P06
レザー 編	アニリンなどの染料仕上げ	Leather (Aniline)	P08
レザー 編	スエードやヌバックなどの起毛レザー	Leather (Suede,Nubuck)	P10
合成皮革・人口皮革 編		Synthetic Leather	P12
大理石 編		Marble	P14
木 編		Wood	P16
ガラス 編		Glass	P18
金属 編		Metal	P20

加工製品の ケア方法について

ファブリック編

ファブリックは、繊維に汚れが付着すると、汚れが繊維の中に浸透して染まり、比較的短時間でシミになってしまいます。

ONE COATINGは、繊維のまわりをコーティング皮膜で覆うことで、個体や液体の汚れが繊維の中に浸透することを防ぎ、シミになることを抑えます。

【ONE COATINGの主な働き】

- 汚れが繊維の中に浸透することを防ぐ
- 皮膜が繊維を守ることで、耐摩耗性を向上させる
- 皮膜に機能を添加して、多彩な機能をプラスする

しかし、汚れやゴミ等の物質が付着したり、表面に堆積する物理的な現象まで抑えることはできない為、付着した汚れを除去するケアは必要です。

ONE COATING加工品は、コーティング皮膜の働きにより、未加工品に比べ、汚れが付きにくく取れやすい性質を持っていますので、大半の汚れは、身近な清掃用具を使って、簡単に落とすことができます。

01 ゴミやホコリ等の除去

方法：ブラッシング、掃除機がけ / 推奨品：馬毛ブラシ

ブラッシング 1



押しつけず、織り目に沿って、優しくブラッシングしてください。毛足が長いものは毛並みに沿ってブラッシングしてください。

2



生地の隙間や縫製部分に入ったホコリやチリを取り除いてください。

3



ブラシが届かない入隅部分や隙間は、掃除機を使って吸い取ってください。

掃除機がけ 1



掃除機のノズルの付属品に丸ブラシや布団クリーナーがあれば使用してください。

2



押しつけたり、強くこすらず、優しく吸い取ってください。

3



表面を軽くたたき、内部のホコリやチリも取り除くようにしてください。

※頻度は、週に1〜2回を推奨しています。溜まったホコリやゴミを除去することで、ダニやカビの発生を予防します。

02 繊維に付着した汚れの除去

方法：水拭き、乾拭き / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル

水拭き 1



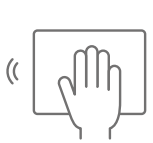
タオルを水に浸して、固く絞ります。

2



織り目に沿って、ゆっくりとタオルを動かしてください。

3



汚れが取れにくい箇所は、縦、横、斜めの方向から、生地の隙間に届くように、繰り返し拭いてください。強く擦ると生地を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。

4



最後に、綺麗な水で固く絞ったタオルで、全体を拭いてください。

乾拭き 1



十分乾いたタオルで、水分を拭き取ります。拭き取りが甘いと、汚れ戻りやシミができてしまいますので、しっかりと拭き取ってください。

2



拭いた後は、湿気が残らないように、生地を乾かしてください。

※頻度は、月に1〜2回を推奨しています。付着した汚れを除去することで、生地の劣化や変色を抑えます。

加工製品の ケア方法について

ファブリック編

ここでは、ONE COATING加工品の清掃並びに基本的なケア方法をご案内しています。

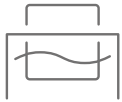
目に見えない臭いや菌、カビ等についても、除去と予防の観点で記載をいたしました。

「身近にある用具と簡単な方法」をテーマにしていますが、合わせて推奨品を掲載していますので、参考にいただければと思います。

なお、市販の洗剤や消臭スプレー等は、繊細な家具・インテリア用品に不向きなものも多い為、使用に際しては十分注意してください。

03 繊維に固着した汚れの除去

方法：洗剤を使った拭き清掃 / 推奨品：ファブリック用洗剤、厚手マイクロファイバータオル、馬毛ブラシ

- 

タオルをぬるま湯に浸して、固く絞ります。
- 

タオル側に洗剤を噴霧します。生地側に直接洗剤を噴霧しないように気をつけてください。
- 

洗剤を付けたタオルを汚れ箇所に押し当て、縦、横、斜めの方向にゆっくりと動かしてください。
- 

汚れが取れにくい場合は、馬毛ブラシを使って、汚れ箇所をブラッシングし、固着した汚れを剥がします。
- 

綺麗な水で固く絞ったタオルで、溶解した汚れと洗剤を入念に拭き取ります。
- 

最後に、乾いたタオルで水分を拭き取り、湿気が残らないよう十分乾かしてください。

※頻度は、汚れを発見したら速やかに実施します。時間が経過するほど、汚れが取れにくく、変色等に繋がります。

04 臭いや菌、カビなどの除去と予防

方法：機能を持ったスプレーの噴霧 / 推奨品：アルコール、塩素、界面活性剤が入っていないスプレー

- 

あらかじめ目立たない部分で試して、問題がないか確認します。
- 

生地から30cmほど離して、表面に満遍なく液剤が行き渡るようにスプレーします。
- 

毛足が長い生地の場合は、スプレーの後にブラシでブラッシングし、毛足の奥まで液剤を浸透させます。
- 

スプレー後は、湿気が残らないように、しっかりと生地を乾かしてください。

※頻度は、月に2回程度を推奨しています。カビが生えやすい季節や、汗をかく夏場などは、予防対策として事前のスプレーが有効です。

加工製品の ケア方法について

ラグ、カーペット 編

ラグやカーペットは、繊維に汚れが付着すると、汚れが繊維の中に浸透して染まり、比較的短時間でシミになってしまいます。

ONE COATINGは、繊維のまわりをコーティング皮膜で覆うことで、個体や液体の汚れが繊維の中に浸透することを防ぎ、シミになることを抑えます。

【ONE COATINGの主な働き】

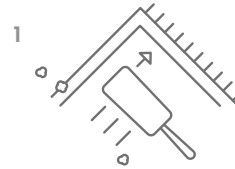
- ・汚れが繊維の中に浸透することを防ぐ
- ・皮膜が繊維を守ること、耐摩耗性を向上させる
- ・皮膜に機能を添加して、多彩な機能をプラスする

しかし、汚れやゴミ等の物質が付着したり、表面に堆積する物理的な現象まで抑えることはできない為、付着した汚れを除去するケアは必要です。

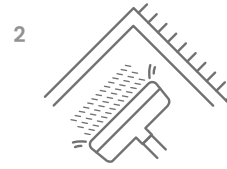
ONE COATING加工品は、コーティング皮膜の働きにより、未加工品に比べ、汚れが付きにくく取れやすい性質を持っていますので、大半の汚れは、身近な清掃用具を使って、簡単に落とすことができます。

01 ゴミやホコリ等の除去

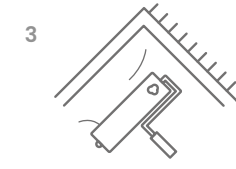
方法：掃除機等を使った除塵清掃 / 推奨品：ヘアブラシ、掃除機、粘着ローラー



ラグをなでて、色が濃くなる方向に向かってヘアブラシをかけ、毛足の奥に入り込んだゴミを掻き出します。



ラグの毛を立てるようにして、縦、横、斜めの方向から満遍なく、ゆっくり（目安：1平米に20秒くらい）と掃除機を動かします。



粘着ローラーを使って、掃除機では取りにくい髪の毛やホコリを取り除いてください。

※頻度は、週に1～2回を推奨しています。溜まったホコリやゴミを除去することで、ダニやカビの発生を予防します。

02 繊維に付着した汚れの除去

方法：水拭き、乾拭き / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル

水拭き 1



タオルを水に浸して、固く絞ります。

2



ラグの毛並みに沿って、ゆっくりとタオルを動かしてください。

3



汚れが取れにくい箇所は、ラグの毛を立てるように、縦、横、斜めの方向から、毛足の奥まで届くように、繰り返し拭いてください。

4



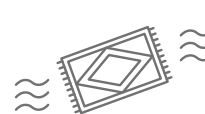
最後に、綺麗な水で固く絞ったタオルで、全体を拭いてください。

乾拭き 1



十分乾いたタオルで、水分を拭き取ります。拭き取りが甘いと、汚れ戻りやシミができてしまいますので、しっかりと拭き取ってください。

2



拭いた後は、湿気が残らないように、ラグを乾かしてください。

※強く擦るとラグの毛足を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。

※頻度は、月に1～2回を推奨しています。付着した汚れを除去することで、ラグの劣化や変色を抑えます。

加工製品の ケア方法について

ラグ、カーペット編

ここでは、ONE COATING加工品の清掃並びに基本的なケア方法をご案内しています。

目に見えない臭いや菌、カビ等についても、除去と予防の観点で記載をいたしました。

「身近にある用具と簡単な方法」をテーマにしていますが、合わせて推奨品を掲載していますので、参考にいただければと思います。

なお、市販の洗剤や消臭スプレー等は、繊細な家具・インテリア用品に不向きなものも多い為、使用に際しては十分注意してください。

03 繊維に固着した汚れの除去

方法：洗剤を使った拭き清掃 / 推奨品：ファブリック用洗剤、厚手マイクロファイバータオル

1



タオルをぬるま湯に浸して、固く絞ります。

2



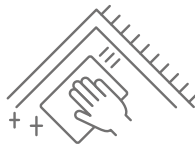
タオル側に洗剤を噴霧します。ラグ側に直接洗剤を噴霧しないように気をつけてください。

3



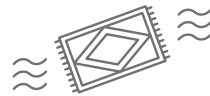
洗剤を付けたタオルを汚れ箇所に押し当て、ラグの毛を立て、毛足の奥まで届くように、縦、横、斜めの方向から、ゆっくりと動かしてください。

4



綺麗な水で固く絞ったタオルで、溶解した汚れと洗剤を入念に拭き取ります。

5



最後に、乾いたタオルで水分を拭き取り、湿気が残らないよう十分乾かしてください。※

※洗剤が使用できない製品がありますので、あらかじめ販売店等に確認してください。

※乾燥させる際、直射日光での乾燥や急激な乾燥は、変色や硬化の原因になるので、陰干しでゆっくりと行ってください。

※頻度は、汚れを発見したら速やかに実施します。時間が経過するほど汚れが取れにくく、変色等に繋がります。

04 臭いや菌、カビなどの除去と予防

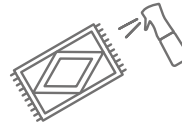
方法：機能を持ったスプレーの噴霧 / 推奨品：アルコール、塩素、界面活性剤が入っていないスプレー

1



あらかじめ目立たない部分で試して、問題がないか確認します。

2



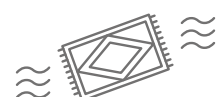
ラグから30cmほど離して、表面に満遍なく液剤が行き渡るようにスプレーします。

3



毛足が長いラグの場合は、スプレーの後にヘアブラシでブラッシングし、毛足の奥まで液剤を浸透させます。

4



スプレー後は、湿気が残らないように、しっかりとラグを乾かしてください。

※頻度は、月に2回程度を推奨しています。カビが生えやすい季節や、汗をかく夏場などは、予防対策として事前のスプレーが有効です。

加工製品の ケア方法について

スモースレザー 編

起毛や凹凸がない表面が滑らかな革であるスモースレザーは、革の中では、比較的、お手入れがしやすい素材です。

ONE COATINGは、表面をコーティング皮膜で覆うことで、個体や液体の汚れが中に浸透することを防ぎ、シミになることを抑えます。

【ONE COATINGの主な働き】

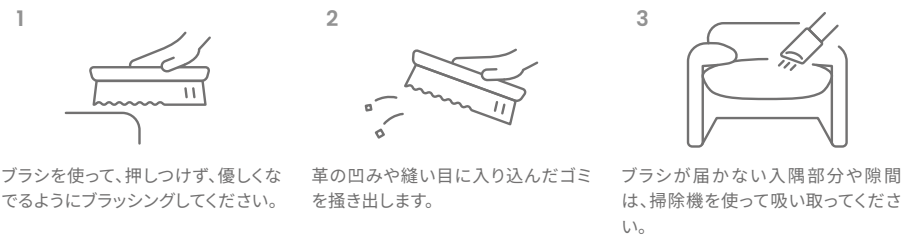
- 汚れが革に浸透することを防ぐ
- 皮膜が革を守ること、耐摩耗性を向上させる
- 皮膜に機能を添加して、多彩な機能をプラスする

しかし、汚れやゴミ等の物質が付着したり、表面に堆積する物理的な現象まで抑えることはできない為、付着した汚れを除去するケアは必要です。

ONE COATING加工品は、コーティング皮膜の働きにより、未加工品に比べ、汚れが付きにくく取れやすい性質を持っていますので、大半の汚れは、身近な清掃用具を使って、簡単に落とすことができます。

01 ゴミやホコリ等の除去

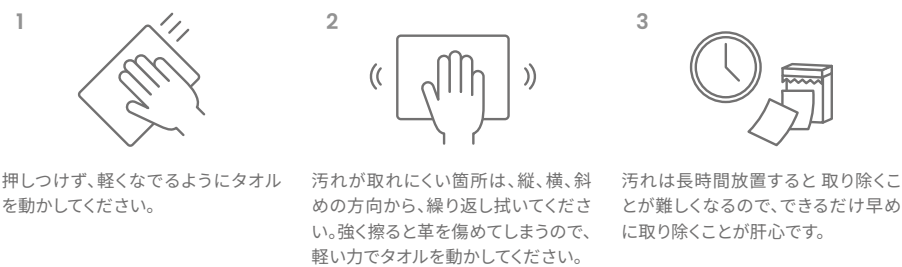
方法：ブラッシング / 推奨品：馬毛ブラシ



※頻度は、週に1〜2回を推奨しています。溜まったホコリやゴミを除去することで、劣化を抑え、カビの発生を予防します。

02 表面に付着した汚れの除去

方法：乾拭き / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル



※頻度は、月に1〜2回を推奨しています。付着した汚れを除去することで、革の劣化や変色を抑えます。

加工製品の ケア方法について

スモースレザー 編

ここでは、ONE COATING加工品の清掃並びに基本的なケア方法をご案内しています。

目に見えない臭いや菌、カビ等についても、除去と予防の観点で記載をいたしました。

「身近にある用具と簡単な方法」をテーマにしていますが、合わせて推奨品を掲載していますので、参考にいただければと思います。

なお、市販の洗剤や消臭スプレー等は、繊細な家具・インテリア用品に不向きなものも多い為、使用に際しては十分注意してください。

03 表面に固着した汚れの除去

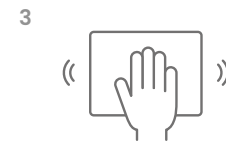
方法：洗剤を使った拭き清掃 / 推奨品：レザー用クレンジングシート、厚手マイクロファイバータオル



水分に触れると濡れ色がついたり、シミになる素材がありますので、あらかじめ目立たない部分で試してください。



水を固く絞ったタオルで、汚れが固着した箇所を拭き、表面を軽く湿らせませす。



レザー用クレンジングシートを汚れ箇所に押し当て、縦、横、斜めの方向にゆっくりと動かしてください。



汚れが取れにくい場合は、馬毛ブラシを使って、汚れ箇所をブラッシングし、固着した汚れを剥がします。



綺麗な水で固く絞ったタオルで、溶解した汚れと洗剤を入念に拭き取りませす。



最後に、乾いたタオルで水分を拭き取り、湿気が残らないよう十分乾かしてください。

※頻度は、汚れを発見したら速やかに実施します。時間が経過するほど汚れが取れにくく、変色等に繋がります。

04 臭いや菌、カビなどの除去と予防

方法：機能を持ったスプレーの噴霧 / 推奨品：アルコール、塩素、界面活性剤が入っていないスプレー



水分に触れると濡れ色がついたり、シミになる素材がありますので、あらかじめ目立たない部分で試してください。



対象物から30cmほど離して、表面が軽く湿る程度にスプレーします。



スプレー後は、湿気が残らないように、しっかりと革を乾かしてください。

※頻度は、月に2回程度を推奨しています。カビが生えやすい季節や、汗をかく夏場などは、予防対策として事前のスプレーが有効です。

加工製品の ケア方法について

レザー（アニリンなどの染料仕上げ）編

革本来の風合いを大切にするため、表面を塗装ではなく染料で仕上げた革。吸水率が高く、耐水性が弱いため、水分に触れると濡れ色がついたり、汚れやシミがつきやすい特徴があります。

また、染料で染められているので、色褪せや色移りが起こりやすく、非常に繊細で、お手入れや補修が難しい素材です。

ONE COATINGは、表面をコーティング皮膜で覆うことで、個体や液体の汚れが革に浸透することを防ぎ、シミになることを抑えます。

【ONE COATINGの主な働き】

- ・汚れが革に浸透することを防ぐ
- ・皮膜が革を守ること、耐摩耗性を向上させる
- ・皮膜に機能を添加して、多彩な機能をプラスする

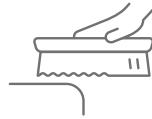
しかし、汚れやゴミ等の物質が付着したり、表面に堆積する物理的な現象まで抑えることはできない為、付着した汚れを除去するケアは必要です。

ONE COATING加工品は、コーティング皮膜の働きにより、未加工品に比べ、汚れが付きにくく取れやすい性質を持っていますので、大半の汚れは、身近な清掃用具を使って、簡単に落とすことができます。

01 ゴミやホコリ等の除去

方法：ブラッシング / 推奨品：馬毛ブラシ

1



ブラシを使って、押しつけず、優しくなでるようにブラッシングしてください。

2



革の凹みや縫い目に入り込んだゴミを掻き出します。

3



ブラシが届かない入隅部分や隙間は、掃除機を使って吸い取ってください。

※頻度は、週に1〜2回を推奨しています。溜まったホコリやゴミを除去することで、劣化を抑え、カビの発生を予防します。

02 表面に付着した汚れの除去

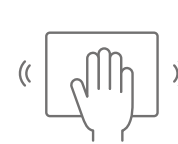
方法：乾拭き / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル

1



押しつけず、軽くなでるようにタオルを動かしてください。

2



汚れが取れにくい箇所は、縦、横、斜めの方向から、繰り返し拭いてください。強く擦ると革を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。

3



汚れは長時間放置すると取り除くことが難しくなるので、できるだけ早めに取り除くことが肝心です。

※頻度は、月に1〜2回を推奨しています。付着した汚れを除去することで、革の劣化や変色を抑えます。

加工製品の ケア方法について

レザー（アニリンなどの染料仕上げ）編

ここでは、ONE COATING加工品の清掃並びに基本的なケア方法をご案内しています。

目に見えない臭いや菌、カビ等についても、除去と予防の観点で記載をいたしました。

「身近にある用具と簡単な方法」をテーマにしていますが、合わせて推奨品を掲載していますので、参考にいただければと思います。

なお、市販の洗剤や消臭スプレー等は、繊細な家具・インテリア用品に不向きなものも多い為、使用に際しては十分注意してください。

03 表面に固着した汚れの除去

Attention

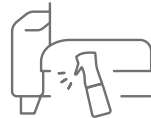
プロに相談しましょう。

給水率が高く、非常に繊細な革であるため、
下手に触ると、汚れが広がったり、状態を悪化させてしまうことがあります。
購入先などプロに相談しましょう。

04 臭いや菌、カビなどの除去と予防

方法：機能を持ったスプレーの噴霧 / 推奨品：アルコール、塩素、界面活性剤が入っていないスプレー

1



水分に触れると濡れ色がついたり、シミになる素材がありますので、あらかじめ目立たない部分で試してください。

2



対象物から30cmほど離して、表面が軽く湿る程度にスプレーします。

3



スプレー後は、湿気が残らないように、しっかりと革を乾かしてください。

※頻度は、月に2回程度を推奨しています。カビが生えやすい季節や、汗をかく夏場などは、予防対策として事前のスプレーが有効です。

加工製品の ケア方法について

レザー（スエードやヌバックなどの起毛レザー）編

スエードは、なめした革の内側をサンドペーパーなどで起毛させた起毛革です。ヌバックは、革の外側をサンドペーパーなどで起毛させた起毛革です。これら起毛革は、汚れがつきやすくデリケートな特徴があります。

起毛革に汚れが付着すると、汚れが繊維の中に浸透して染まり、比較的短時間でシミになってしまいます。

ONE COATINGは、起毛革の繊維のまわりをコーティング皮膜で覆うことで、個体や液体の汚れが繊維の中に浸透することを防ぎ、シミになることを抑えます。

【ONE COATINGの主な働き】

- 汚れが繊維の中に浸透することを防ぐ
- 皮膜が繊維を守ることで、耐摩耗性を向上させる
- 皮膜に機能を添加して、多彩な機能をプラスする

しかし、汚れやゴミ等の物質が付着したり、表面に堆積する物理的な現象まで抑えることはできない為、付着した汚れを除去するケアは必要です。

ONE COATING加工品は、コーティング皮膜の働きにより、未加工品に比べ、汚れが付きにくく取れやすい性質を持っていますので、大半の汚れは、身近な清掃用具を使って、簡単に落とすことができます。

01 ゴミやホコリ等の除去

方法：ブラッシング、掃除機がけ / 推奨品：馬毛ブラシ

ブラッシング 1



最初に毛足を逆立てるようにブラッシングして、ゴミやホコリを取り除いてください。

2



次に毛並みに沿って全体を優しくブラッシングし、毛並みを整えてください。

3



ブラシが届かない入隅部分や隙間は、掃除機を使って吸い取ってください。

※頻度は、週に1～2回を推奨しています。溜まったホコリやゴミを除去することで、劣化を抑え、カビの発生を予防します。

02 表面に付着した汚れの除去

方法：乾拭き / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル

1



押しつけず、軽くなでるようにタオルを動かしてください。

2



汚れが取れにくい箇所は、縦、横、斜めの方向から、繰り返し拭いてください。強く擦ると革を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。

3



汚れは長時間放置すると取り除くことが難しくなるので、できるだけ早めに取り除くことが肝心です。

※頻度は、月に1～2回を推奨しています。付着した汚れを除去することで、革の劣化や変色を抑えます。

加工製品の ケア方法について

レザー（スエードやヌバックなどの起毛レザー）編

ここでは、ONE COATING加工品の清掃並びに基本的なケア方法をご案内しています。

目に見えない臭いや菌、カビ等についても、除去と予防の観点で記載をいたしました。

「身近にある用具と簡単な方法」をテーマにしていますが、合わせて推奨品を掲載していますので、参考にいただければと思います。

なお、市販の洗剤や消臭スプレー等は、繊細な家具・インテリア用品に不向きなものも多い為、使用に際しては十分注意してください。

03 表面に固着した汚れの除去

方法：洗剤を使った拭き清掃 / 推奨品：起毛革用消しゴム、起毛革用クリーナー、馬毛ブラシ、厚手マイクロファイバー

1



表面に固着した汚れは、消しゴムタイプのクリーナーを使って落とします。

2



毛足の中に浸透してしまった汚れは、起毛革用クリーナーを噴霧して、固着した汚れを浮かします。

3



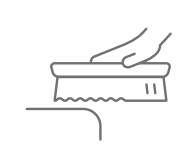
水分に触れると濡れ色がついたり、シミになる素材がありますので、あらかじめ目立たない部分で試してください。

4



乾いたタオルを使って、浮いた汚れを拭き取ります。

5



汚れが取れにくい場合は、馬毛ブラシを使って、汚れ箇所をブラッシングし、固着した汚れを剥がします。

6



湿気が残らないよう十分乾かしてください。

※起毛革用クリーナーの使用法は、商品に記載の説明書をご確認ください。

※頻度は、汚れを発見したら速やかに実施します。時間が経過するほど汚れが取れにくく、劣化に繋がります。

04 臭いや菌、カビなどの除去と予防

方法：機能を持ったスプレーの噴霧 / 推奨品：アルコール、塩素、界面活性剤が入っていないスプレー

1



水分に触れると濡れ色がついたり、シミになる素材がありますので、あらかじめ目立たない部分で試してください。

2



対象物から30cmほど離して、表面が軽く湿る程度にスプレーします。

3



スプレー後は、湿気が残らないように、しっかりと革を乾かしてください。

※頻度は、月に2回程度を推奨しています。カビが生えやすい季節や、汗をかく夏場などは、予防対策として事前のスプレーが有効です。

加工製品の ケア方法について

合成皮革・人工皮革 編

革に似せて石油などを原料で作られた合成皮革や人工皮革は、耐水性や耐久性があり、比較的、お手入れがしやすい素材です。

一方で、基本的に、湿気や熱に弱いという特性があります。

ONE COATINGは、素材表面をコーティング皮膜で覆うことで、耐摩耗性や耐候性を向上させ、合成皮革や人工皮革の劣化を低減させることができます。

【ONE COATINGの主な働き】

- 皮膜が表面を守ること、耐摩耗性や耐候性を向上させる
- 皮膜に機能を添加して、多彩な機能をプラスする

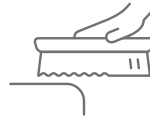
しかし、汚れやゴミ等の物質が付着したり、表面に堆積する物理的な現象まで抑えることはできない為、付着した汚れを除去するケアは必要です。

ONE COATING加工品は、コーティング皮膜の働きにより、未加工品に比べ、汚れが付きにくく取れやすい性質を持っていますので、大半の汚れは、身近な清掃用具を使って、簡単に落とすことができます。

01 ゴミやホコリ等の除去

方法:ブラッシング / 推奨品:馬毛ブラシ

馬毛ブラシ 1



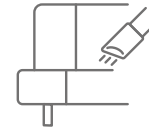
ブラシを使って、押しつけず、優しくなでるようにブラッシングしてください。

2



革の凹みや縫い目に入り込んだゴミを掻き出します。

3



ブラシが届かない入隅部分や隙間は、掃除機を使って吸い取ってください。

※頻度は、週に1～2回を推奨しています。溜まったホコリやゴミを除去することで、劣化を抑え、カビの発生を予防します。

02 表面に付着した汚れの除去

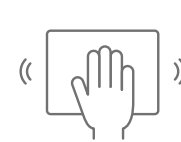
方法:乾拭き / 推奨品:厚手マイクロファイバータオル

1



押しつけず、軽くなでるようにタオルを動かしてください

2



汚れが取れにくい箇所は、縦、横、斜めの方向から、繰り返し拭いてください。強く擦ると革を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。

3



汚れは長時間放置すると取り除くことが難しくなるので、できるだけ早めに取り除くことが肝心です。

※頻度は、月に1～2回を推奨しています。付着した汚れを除去することで、合成皮革等の劣化や変色を抑えます。

加工製品の ケア方法について

合成皮革・人工皮革 編

※次ページ

ここでは、ONE COATING加工品の清掃並びに基本的なケア方法をご案内しています。

目に見えない臭いや菌、カビ等についても、除去と予防の観点で記載をいたしました。

「身近にある用具と簡単な方法」をテーマにしていますが、合わせて推奨品を掲載していますので、参考にいただければと思います。

なお、市販の洗剤や消臭スプレー等は、繊細な家具・インテリア用品に不向きなものも多い為、使用に際しては十分注意してください。

03 表面に固着した汚れの除去

方法：洗剤を使った拭き清掃 / 推奨品：レザー用クレンジングシート、厚手マイクロファイバータオル

1



タオルをぬるま湯に浸して、固く絞ります。

2



タオル側に洗剤を噴霧します。合成皮革や人工皮革側に直接洗剤を噴霧しないように気をつけてください。

3



洗剤を付けたタオルを汚れ箇所に押し当て、縦、横、斜めの方向にゆっくりと動かしてください。

4



汚れが取れにくい場合は、馬毛ブラシを使って、汚れ箇所をブラッシングし、固着した汚れを剥がします。

5



綺麗な水で固く絞ったタオルで、溶解した汚れと洗剤を入念に拭き取ります。

6



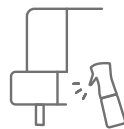
最後に、乾いたタオルで水分を拭き取り、湿気が残らないよう十分乾かしてください。

※頻度は、汚れを発見したら速やかに実施します。時間が経過するほど汚れが取れにくく、劣化に繋がります。

04 臭いや菌、カビなどの除去と予防

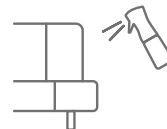
方法：機能を持ったスプレーの噴霧 / 推奨品：アルコール、塩素、界面活性剤が入っていないスプレー

1



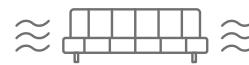
水分に触れると濡れ色がついたり、シミになる素材がありますので、あらかじめ目立たない部分で試してください。

2



対象物から30cmほど離して、表面が軽く湿る程度にスプレーします。

3



スプレー後は、湿気が残らないように、しっかりと乾かしてください。

※頻度は、月に2回程度を推奨しています。カビが生えやすい季節や、汗をかく夏場などは、予防対策として事前のスプレーが有効です。

加工製品の ケア方法について

大理石 編

石灰岩の一種で、表情豊かな模様と光沢が特徴の大理石は、その外見の美しさと高級感ある質感で、人気がある天然石ですが、汚れを吸い込みやすく、酸で溶けやすい等、お手入れや補修が難しい素材です。

ONE COATINGは、独自の技術で、汚れの吸い込みを抑え、酸で溶けることを防ぎ、大理石にシミ等が発生することを低減します。

【ONE COATINGの主な働き】

- 汚れが大理石に浸透することを抑える
- 大理石が酸で溶けることを防ぐ

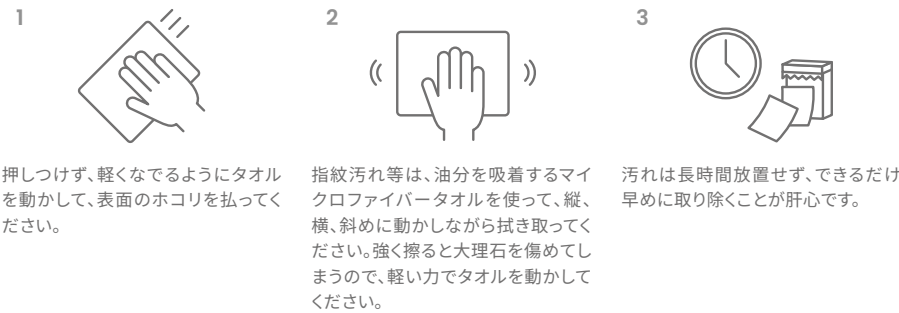
しかし、汚れやゴミ等の物質が付着したり、表面に堆積する物理的な現象まで抑えることはできない為、付着した汚れを除去するケアは必要です。

ONE COATING加工品は、コーティング皮膜の働きにより、未加工品に比べ、汚れが付きにくく取れやすい性質を持っていますので、大半の汚れは、身近な清掃用具を使って、簡単に落とすことができます。

なお、強い衝撃や鋭利な刃物等による傷に対しては、コーティング皮膜が剥離または欠損する可能性がありますので、ご注意ください。

01 ホコリや指紋汚れの除去

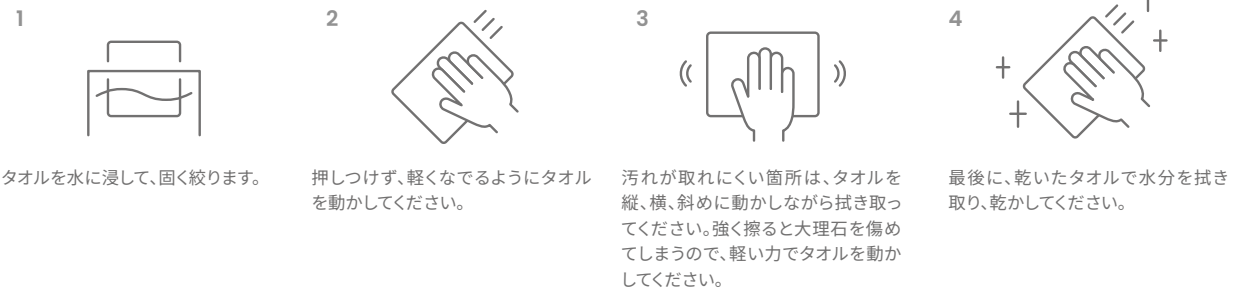
方法：乾拭き清掃 / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル



※頻度は、週に1~2回を推奨しています。溜まったホコリや指紋汚れを除去することで、加工面の劣化を低減します。

02 表面に付着した汚れの除去

方法：水拭き清掃 / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル



※頻度は、週に1~2回を推奨しています。汚れを除去することで、加工面の劣化を低減します。

加工製品の ケア方法について

大理石 編

ここでは、ONE COATING加工品の清掃並びに基本的なケア方法をご案内しています。

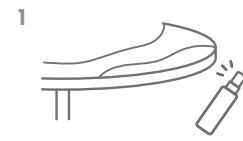
目に見えない臭いや菌、カビ等についても、除去と予防の観点で記載をいたしました。

「身近にある用具と簡単な方法」をテーマにしていますが、合わせて推奨品を掲載していますので、参考にいただければと思います。

なお、市販の洗剤や消臭スプレー等は、繊細な家具・インテリア用品に不向きなものも多い為、使用に際しては十分注意してください。

03 表面に固着した汚れの除去

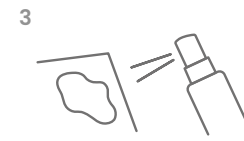
方法：洗剤を使った拭き清掃 / 推奨品：中性洗剤、厚手マイクロファイバータオル



研磨剤、漂白剤等は使用せず、中性洗剤を水で薄めて使ってください。必ず、目立たない場所で試してください。



水を固く絞ったタオルで、汚れが固着した箇所を拭き、あらかじめ大理石の表面を水で軽く湿らせます。



タオル側に薄めた中性洗剤を塗布します。大理石側に直接洗剤を付けないように気をつけてください。



洗剤を付けたタオルを汚れ箇所に押し当て、縦、横、斜めに動かしながら拭き取ってください。強く擦ると大理石を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。



綺麗な水で固く絞ったタオルで、溶解した汚れと洗剤を入念に拭き取ります。



最後に、乾いたタオルで水分を拭き取り、乾かしてください。

※頻度は、汚れを発見したら速やかに実施します。時間が経過するほど、汚れが取れにくく、加工面の劣化に繋がります。

04 菌やウイルスなどの除去と予防

方法：機能を持ったスプレーの噴霧 / 推奨品：アルコール、塩素、界面活性剤が入っていないスプレー



あらかじめ目立たない部分で試してください。



対象物から30cmほど離して、表面が軽く湿る程度にスプレーします。



乾いたタオルで軽くなるように拭き、液剤が満遍なく行き渡るようにしてください。



湿気が残らないように、しっかりと大理石を乾かしてください。

※頻度は、月に2回程度を推奨しています。菌が繁殖しやすい季節や、ウイルス感染対策として事前のスプレーが有効です。

加工製品の ケア方法について

木 編

自然な風合いや耐久性が魅力的で人気がある木は、仕上げの方法によってお手入れ方法が変わりますが、大きくは、塗装がない仕上げと、塗装がある仕上げに分かれます。

塗装がない仕上げは、木に汚れが付着すると、汚れが木の繊維の中に浸透して染まり、比較的短時間でシミになってしまいます。

塗装がある仕上げは、塗膜により木表面が平滑になり、比較的、お手入れがしやすい素材です。

ONE COATINGは、仕上げの別に、木繊維のまわりや木表面をコーティング皮膜で覆うことで、個体や液体の汚れが浸透することを防ぎ、シミになることを抑えます。

【ONE COATINGの主な働き】

- ・汚れが木に浸透することを防ぐ
- ・皮膜が木を守ることで、耐摩耗性を向上させる
- ・皮膜に機能を添加して、多彩な機能をプラスする

しかし、汚れやゴミ等の物質が付着したり、表面に堆積する物理的な現象まで抑えることはできない為、付着した汚れを除去するケアは必要です。

ONE COATING加工品は、コーティング皮膜の働きにより、未加工品に比べ、汚れが付きにくく取れやすい性質を持っていますので、大半の汚れは、身近な清掃用具を使って、簡単に落とすことができます。

なお、強い衝撃や鋭利な刃物等による傷に対しては、コーティング皮膜が剥離または欠損する可能性がありますので、ご注意ください。

サービスについてのお問い合わせはこちら：onecoating.jp/contact

01 ホコリや指紋汚れの除去

方法：乾拭き清掃 / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル

1



押しつけず、軽くなでるようにタオルを動かして、表面のホコリを払ってください。

2



指紋汚れ等は、油分を吸着するマイクロファイバータオルを使って、縦、横、斜めに動かしながら拭き取ってください。強く擦ると木を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。

3



汚れは長時間放置せず、できるだけ早めに取り除くことが肝心です。

※頻度は、週に1~2回を推奨しています。溜まったホコリや指紋汚れを除去することで、加工面の劣化を低減します。

02 表面に付着した汚れの除去

方法：水拭き / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル

1



タオルを水に浸して、固く絞ります。

2



押しつけず、軽くなでるようにタオルを動かしてください。

3



汚れが取れにくい箇所は、タオルを縦、横、斜めに動かしながら拭き取ってください。強く擦ると木を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。

4



最後に、乾いたタオルで水分を拭き取り、乾かしてください。

※頻度は、週に1~2回を推奨しています。汚れを除去することで、加工面の劣化を低減します。

加工製品の ケア方法について

木編

ここでは、ONE COATING加工品の清掃並びに基本的なケア方法をご案内しています。

目に見えない臭いや菌、カビ等についても、除去と予防の観点で記載をいたしました。

「身近にある用具と簡単な方法」をテーマにしていますが、合わせて推奨品を掲載していますので、参考にいただければと思います。

なお、市販の洗剤や消臭スプレー等は、繊細な家具・インテリア用品に不向きなものも多い為、使用に際しては十分注意してください。

03 表面に固着した汚れの除去

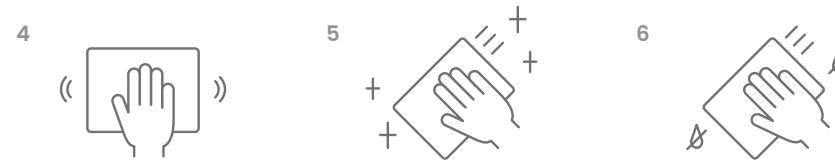
方法：洗剤を使った拭き清掃 / 推奨品：中性洗剤、厚手マイクロファイバータオル



研磨剤、漂白剤等は使用せず、中性洗剤を水で薄めて使ってください。必ず、目立たない場所で試してください。

水を固く絞ったタオルで、汚れが固着した箇所を拭き、あらかじめ木の表面を軽く水で湿らせます。

タオル側に薄めた中性洗剤を塗布します。木側に直接洗剤を付けないように気をつけてください。



洗剤を付けたタオルを汚れ箇所に押し当て、縦、横、斜めに動かしながら拭き取ってください。強く擦ると木を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。

綺麗な水で固く絞ったタオルで、溶解した汚れと洗剤を入念に拭き取ります。

最後に、乾いたタオルで水分を拭き取り、乾かしてください。

※頻度は、汚れを発見したら速やかに実施します。時間が経過するほど、汚れが取れにくく、加工面の劣化に繋がります。

04 菌やウイルスなどの除去と予防

方法：機能を持ったスプレーの噴霧 / 推奨品：アルコール、塩素、界面活性剤が入っていないスプレー



あらかじめ目立たない部分で試してください。

対象物から30cmほど離して、表面が軽く湿る程度にスプレーします。

乾いたタオルで軽くなるように拭き、液剤が満遍なく行き渡るようにしてください。

湿気が残らないように、しっかりと木を乾かしてください。

※頻度は、月に2回程度を推奨しています。菌が繁殖しやすい季節や、ウイルス感染対策として事前のスプレーが有効です。

加工製品の ケア方法について

ガラス編

透明感があり、洗練された印象を与えるガラスは、シミなどが出来にくい反面、傷が付きやすく、指紋汚れ等が目立ちやすい素材です。

ONE COATINGは、表面をコーティング皮膜で覆うことで、個体や液体の汚れが固着することを防ぎ、付着した汚れを剥がれやすくします。

【ONE COATINGの主な働き】

- 汚れがガラスに固着することを防ぐ
- 付着した汚れを剥がれやすくする
- 皮膜に機能を添加して、多彩な機能をプラスする

しかし、汚れやゴミ等の物質が付着したり、表面に堆積する物理的な現象まで抑えることはできない為、付着した汚れを除去するケアは必要です。

ONE COATING加工品は、コーティング皮膜の働きにより、未加工品に比べ、汚れが付きにくく取れやすい性質を持っていますので、大半の汚れは、身近な清掃用具を使って、簡単に落とすことができます。

なお、強い衝撃や鋭利な刃物等による傷に対しては、コーティング皮膜が剥離または欠損する可能性がありますので、ご注意ください。

01 ホコリや指紋汚れの除去

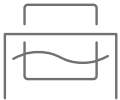
方法：乾拭き清掃 / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル

1		2		3	
	押しつけず、軽くなでるようにタオルを動かして、表面のホコリを払ってください。		指紋汚れ等は、油分を吸着するマイクロファイバータオルを使って、縦、横、斜めに動かしながら拭き取ってください。強く擦るとガラスを傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。		汚れは長時間放置せず、できるだけ早めに取り除くことが肝心です。

※頻度は、週に1~2回を推奨しています。溜まったホコリや指紋汚れを除去することで、加工面の劣化を低減します。

02 表面に付着した汚れの除去

方法：水拭き清掃 / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル

1		2		3		4	
	タオルを水に浸して、固く絞ります。		押しつけず、軽くなでるようにタオルを動かしてください。		汚れが取れにくい箇所は、タオルを縦、横、斜めに動かしながら拭き取ってください。強く擦るとガラスを傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。		最後に、乾いたタオルで水分を拭き取り、乾かしてください。

※頻度は、週に1~2回を推奨しています。汚れを除去することで、加工面の劣化を低減します。

加工製品の ケア方法について

ガラス編

ここでは、ONE COATING加工品の清掃並びに基本的なケア方法をご案内しています。

目に見えない臭いや菌、カビ等についても、除去と予防の観点で記載をいたしました。

「身近にある用具と簡単な方法」をテーマにしていますが、合わせて推奨品を掲載していますので、参考にいただければと思います。

なお、市販の洗剤や消臭スプレー等は、繊細な家具・インテリア用品に不向きなものも多い為、使用に際しては十分注意してください。

03 表面に固着した汚れの除去

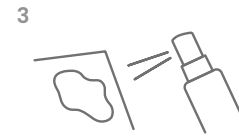
方法：洗剤を使った拭き清掃 / 推奨品：中性洗剤、厚手マイクロファイバータオル



ガラスクリーナーの使用方法は、商品に記載の説明書をご確認ください。



水を固く絞ったタオルで、汚れが固着した箇所を拭き、あらかじめガラスの表面を軽く水で湿らせます。



タオル側にガラスクリーナーを塗布します。



ガラスクリーナーを付けたタオルを汚れ箇所に押し当て、縦、横、斜めに動かしながら拭き取ってください。強く擦るとガラスを傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。



綺麗な水で固く絞ったタオルで、溶解した汚れと洗剤を入念に拭き取ります。



最後に、乾いたタオルで水分を拭き取り、乾かしてください。

※頻度は、汚れを発見したら速やかに実施します。時間が経過するほど、汚れが取れにくく、加工面の劣化に繋がります。

04 菌やウイルスなどの除去と予防

方法：機能を持ったスプレーの噴霧 / 推奨品：アルコール、塩素、界面活性剤が入っていないスプレー



あらかじめ目立たない部分で試してください。



対象物から30cmほど離して、表面が軽く湿る程度にスプレーします。



乾いたタオルで軽くなるように拭き、液剤が満遍なく行き渡るようにしてください。



湿気が残らないように、しっかりとガラスを乾かしてください。

※頻度は、月に2回程度を推奨しています。菌が繁殖しやすい季節や、ウイルス感染対策として事前のスプレーが有効です。

加工製品の ケア方法について

金属 編

耐久性や耐熱性に優れ、美しい光沢を持つ金属は、汚れ等が浸透せず、丈夫で長持ちする反面、錆びや腐食がしやすく、指紋汚れ等が目立ちやすい素材です。

ONE COATINGは、表面をコーティング皮膜で覆うことで、個体や液体の汚れが固着することを防ぎ、付着した汚れを剥がれやすくします。

【ONE COATINGの主な働き】

- 汚れが金属に固着することを防ぐ
- 付着した汚れを剥がれやすくする
- 皮膜に機能を添加して、多彩な機能をプラスする
- 金属の表面を皮膜で覆うことで酸化を低減する

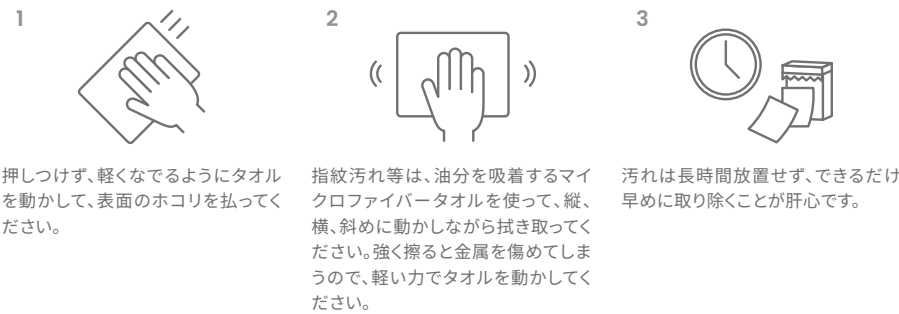
しかし、汚れやゴミ等の物質が付着したり、表面に堆積する物理的な現象まで抑えることはできない為、付着した汚れを除去するケアは必要です。

ONE COATING加工品は、コーティング皮膜の働きにより、未加工品に比べ、汚れが付きにくく取れやすい性質を持っていますので、大半の汚れは、身近な清掃用具を使って、簡単に落とすことができます。

なお、強い衝撃や鋭利な刃物等による傷に対しては、コーティング皮膜が剥離または欠損する可能性がありますので、ご注意ください。

01 ホコリや指紋汚れの除去

方法：乾拭き清掃 / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル



押しつけず、軽くなでるようにタオルを動かして、表面のホコリを払ってください。

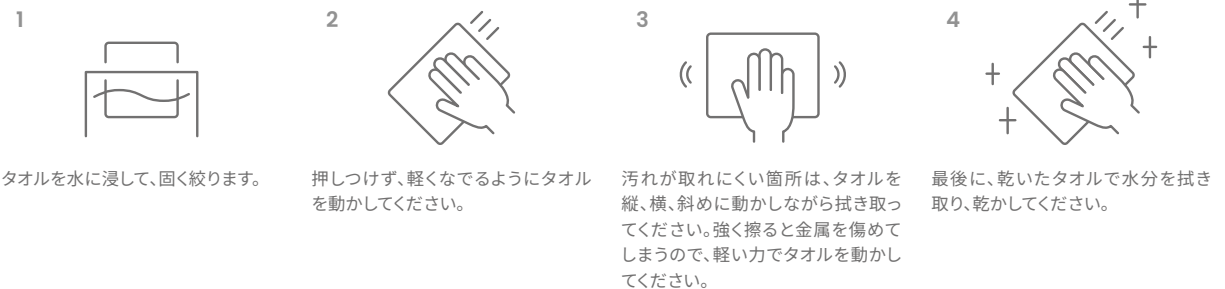
指紋汚れ等は、油分を吸着するマイクロファイバータオルを使って、縦、横、斜めに動かしながら拭き取ってください。強く擦ると金属を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。

汚れは長時間放置せず、できるだけ早めに取り除くことが肝心です。

※頻度は、週に1~2回を推奨しています。溜まったホコリや指紋汚れを除去することで、加工面の劣化を低減します。

02 表面に付着した汚れの除去

方法：水拭き清掃 / 推奨品：厚手マイクロファイバータオル



タオルを水に浸して、固く絞ります。

押しつけず、軽くなでるようにタオルを動かしてください。

汚れが取れにくい箇所は、タオルを縦、横、斜めに動かしながら拭き取ってください。強く擦ると金属を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。

最後に、乾いたタオルで水分を拭き取り、乾かしてください。

※頻度は、週に1~2回を推奨しています。汚れを除去することで、加工面の劣化を低減します。

加工製品の ケア方法について

金属 編

ここでは、ONE COATING加工品の清掃並びに基本的なケア方法をご案内しています。

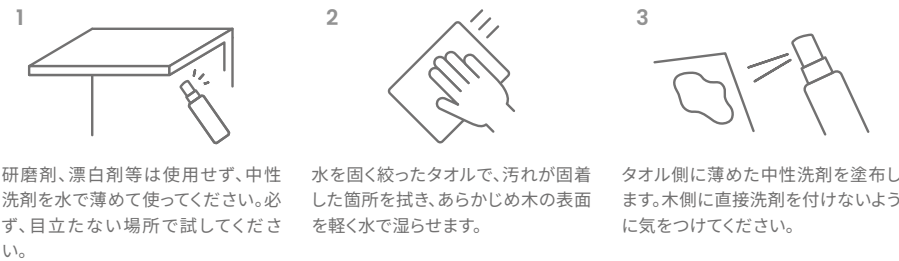
目に見えない臭いや菌、カビ等についても、除去と予防の観点で記載をいたしました。

「身近にある用具と簡単な方法」をテーマにしていますが、合わせて推奨品を掲載していますので、参考にいただければと思います。

なお、市販の洗剤や消臭スプレー等は、繊細な家具・インテリア用品に不向きなものも多い為、使用に際しては十分注意してください。

03 表面に固着した汚れの除去

方法：洗剤を使った拭き清掃 / 推奨品：中性洗剤、厚手マイクロファイバータオル



研磨剤、漂白剤等は使用せず、中性洗剤を水で薄めて使ってください。必ず、目立たない場所で試してください。

水を固く絞ったタオルで、汚れが固着した箇所を拭き、あらかじめ木の表面を軽く水で湿らせます。

タオル側に薄めた中性洗剤を塗布します。木側に直接洗剤を付けないように気をつけてください。



洗剤を付けたタオルを汚れ箇所に押し当て、縦、横、斜めに動かしながら拭き取ってください。強く擦ると金属を傷めてしまうので、軽い力でタオルを動かしてください。

綺麗な水で固く絞ったタオルで、溶解した汚れと洗剤を入念に拭き取ります。

最後に、乾いたタオルで水分を拭き取り、乾かしてください。

※頻度は、汚れを発見したら速やかに実施します。時間が経過するほど、汚れが取れにくく、加工面の劣化に繋がります。

04 菌やウイルスなどの除去と予防

方法：機能を持ったスプレーの噴霧 / 推奨品：アルコール、塩素、界面活性剤が入っていないスプレー



あらかじめ目立たない部分で試してください。

対象物から30cmほど離して、表面が軽く湿る程度にスプレーします。

乾いたタオルで軽くなるように拭き、液剤が満遍なく行き渡るようにしてください。

湿気が残らないように、しっかりと金属を乾かしてください。

※頻度は、月に2回程度を推奨しています。菌が繁殖しやすい季節や、ウイルス感染対策として事前のスプレーが有効です。